働く女性の職業意識に関する研究

第2報

The Study of Women's Social Consciousness For Work

Part 2

山田民子・寺田恭子・渡辺芳道

Tamiko YAMADA, Kyoko TERADA and Yoshimichi WATANABE

緒　言

1975年の国際婦人年と，それに続く国連婦人の10年を経て世界的にもフェミニズムが広がり女性が働くことに対する社会の風潮も変化してきている。

女性の高学歴化の進展などを背景に社会において自己実現，自己啓発を求める女性も増えてきた。

総理府が行った『男女共同参画に関する世論調査』によると，女性が職業を持つことについて『子供ができても，ずっと職業を続ける方が良い』とする女性は，72年には11.5%であったが95年には32.5%に増加している。

又，男性においても『女性は職業を持たない方が良い』と考える男性が，72年の15.9%から95年には4.6%へと減少してきている。

このように社会の風潮が変化してきている現在，学生の就職に関する意識はどのようなのか，又，実際に仕事をしている卒業生を対象に，職業に対する意識はどのようであるか，第1報に引き続きアンケート調査を行い，分析，考察を行った。

目　的

1．大学生の就職についての意識調査
2．卒業生の職業についての意識調査
3．本学学生の人材育成について考察する

本報は1．2．においての調査結果を報告する。

調査方法

1．調査方法はアンケート調査による

アンケート設問項目は第1報と同じ30問とした。

結果は因子分析，クラスター分析により考察した。

2．調査対象

1）大学生A大学社会学部（男女共学）

男子		142名
	1年	81
	2年	21
	3年	34
	4年	6
女子		93名
	1年	66
	2年	17
	3年	10

大学生B大学経営情報学部（男女共学）

男子		220名
	1年	216
	2年	4
女子		95
	1年	94
	2年	1

東京家政大学家政学部 服飾美術学科

女子		539名
	造形1年	94
	2年	81

	3年	43
	4年	125
生活	1年	63
	2年	46
	3年	42
	4年	45

東京家政大学短期大学部 服飾美術科

女子		281名
	1年	139
	2年	142
計		1370名
内訳	男子	362
	女子	1008

2）卒業生　30〜39才女性　111名

東京家政大学附属女子高等学校卒業生30才台500名を層化抽出法により選出，郵送法調査を行った。

回収率22.2%

(1) 卒業生の仕事の業種，職種，職業形態について

業種

公務員	11.7
教　育	10.8
サービス	9.0
医　療	8.1
卸売・小売	7.2
製造（アパレルを含む）	7.2
建　設	5.4
ソフトウェアー	3.6
情　報	2.7
商　社	1.8
保　険	1.8
不動産	1.8
運輸・通信	1.8
金　融	0.9
電気・ガス	0.9
マスコミ	0.9
その他（フリーター）	15.3
無回答	9.0
計	100.0%

職種

事務系	29.7
教　職	9.0
技術系	6.3
専門系（デザイナー等）	5.4
事業経営（自由業）	5.4
営業系	4.5
販売サービス（流通・小売等）	4.5
栄養士・栄養管理	2.7
その他	18.9
無回答	13.5
計	100.0%

就業形態

正社員（フルタイム）	36.0
契約社員	16.2
自営業	9.9
家族従業員	9.0
その他（アルバイト）	12.6
無回答	16.2
計	100.0%

3．調査期間

大学生　1997年4〜6月

卒業生　1997年9〜11月

4．調査内容

調査内容は第1報と同じ社会的な背景をもとに定めた。

男子学生についての設問30の内4問は，自分に関わる女性，妻がどうあって欲しいかと言う回答を求めた。

表1　職業に関する意識調査（男子学生用）

1．　下記の質問項目に対し、あなたの考えに最もふさわしい解答を
　　1から5までの数字の中から1つ選んで○印で囲んでください。

2．　下記の当てはまる学年に○印で囲んで下さい。

　　1学年、　2学年、　3学年、　4学年、　その他

番号	質　問　項　目	1 全くそう思う	2 やや思う	3 どちらともいえない	4 あまり思わない	5 全くそう思わない
1	知名度の高い安定した大企業に就職したい	1	2	3	4	5
2	中小企業でも将来性のある企業に就職したい	1	2	3	4	5
3	事業内容や社風のよい企業に勤めたい	1	2	3	4	5
4	環境の設備や福利厚生施設の充実した企業がよい	1	2	3	4	5
5	就職をするなら、転勤のない企業がよい	1	2	3	4	5
6	出来れば、、通勤が便利なところへ勤めたい	1	2	3	4	5
7	忙しくても出来る限り、給料が高い方がよい	1	2	3	4	5
8	週休2日制で、休日の多いのがよい	1	2	3	4	5
9	生活するために、就職するのは当然だと考える	1	2	3	4	5
10	海外で仕事をするチャンスがある企業がよい	1	2	3	4	5
11	責任のある仕事を任せてくれる企業がよい	1	2	3	4	5
12	取得した資格を生かした仕事がしたい	1	2	3	4	5
13	自分の能力を生かした仕事がしたい	1	2	3	4	5
14	一生続けられる仕事がしたい	1	2	3	4	5
15	人がしていない未開拓な分野の仕事がしたい	1	2	3	4	5
16	世間、社会から注目される仕事がしたい	1	2	3	4	5
17	人間関係であまり苦労しない仕事がしたい	1	2	3	4	5
18	親から経済的に自立したい	1	2	3	4	5
19	世の中の社会勉強をするために仕事をしたい	1	2	3	4	5
20	社会人として精神的に自立したい	1	2	3	4	5
21	専門的な知識や技術、資格を身につけたい	1	2	3	4	5
22	自己の能力、適性、個性を伸ばしたい	1	2	3	4	5
23	これからの人生を考え、人との出逢いを大切にしたい	1	2	3	4	5
24	就職する目的の1つは、人生の伴侶を見つけたいから	1	2	3	4	5
25	就職するのは、交遊、レジャー、趣味の資金を得たいから	1	2	3	4	5
26	就職は、家計の援助や結婚資金を蓄えたいから	1	2	3	4	5
27	妻となる女性の場合、結婚後は仕事をしない方がよい	1	2	3	4	5
28	妻となる女性の場合、出産まで仕事をする方がよい	1	2	3	4	5
29	妻となる女性は、出産で仕事をやめ、子供の成長後、働く方がよい	1	2	3	4	5
30	妻となる女性は、結婚、出産後も仕事を続ける方がよい	1	2	3	4	5

表２　職業に関する意識調査（女子学生用）

１．　下記の質問項目に対し、あなたの考えに最もふさわしい解答を
　　１から５までの数字の中から１つ選んで○印で囲んでください。

２．　下記の当てはまる学年に○印で囲んで下さい。

　　１学年、　２学年、　３学年、　４学年、　その他

番号	質　問　項　目	1 全くそう思う	2 やや思う	3 どちらともいえない	4 あまり思わない	5 全くそう思わない
1	知名度の高い安定した大企業に就職したい	1	2	3	4	5
2	中小企業でも将来性のある企業に就職したい	1	2	3	4	5
3	事業内容や社風のよい企業に勤めたい	1	2	3	4	5
4	環境の設備や福利厚生施設の充実した企業がよい	1	2	3	4	5
5	就職をするなら、転勤のない企業がよい	1	2	3	4	5
6	出来れば、、通勤が便利なところへ勤めたい	1	2	3	4	5
7	忙しくても出来る限り、給料が高い方がよい	1	2	3	4	5
8	週休２日制で、休日の多いのがよい	1	2	3	4	5
9	生活するために、就職するのは当然だと考える	1	2	3	4	5
１０	海外で仕事をするチャンスがある企業がよい	1	2	3	4	5
１１	責任のある仕事を任せてくれる企業がよい	1	2	3	4	5
１２	取得した資格を生かした仕事がしたい	1	2	3	4	5
１３	自分の能力を生かした仕事がしたい	1	2	3	4	5
１４	一生続けられる仕事がしたい	1	2	3	4	5
１５	人がしていない未開拓な分野の仕事がしたい	1	2	3	4	5
１６	世間、社会から注目される仕事がしたい	1	2	3	4	5
１７	人間関係であまり苦労しない仕事がしたい	1	2	3	4	5
１８	親から経済的に自立したい	1	2	3	4	5
１９	世の中の社会勉強をするために仕事をしたい	1	2	3	4	5
２０	社会人として精神的に自立したい	1	2	3	4	5
２１	専門的な知識や技術、資格を身につけたい	1	2	3	4	5
２２	自己の能力、適性、個性を伸ばしたい	1	2	3	4	5
２３	これからの人生を考え、人との出逢いを大切にしたい	1	2	3	4	5
２４	就職する目的の１つは、人生の伴侶を見つけたいから	1	2	3	4	5
２５	就職するのは、交遊、レジャー、趣味の資金を得たいから	1	2	3	4	5
２６	就職は、家計の援助や結婚資金を蓄えたいから	1	2	3	4	5
２７	結婚するまで仕事を続けたい	1	2	3	4	5
２８	結婚後も出産するまで仕事をしたい	1	2	3	4	5
２９	出産で仕事をやめ、子供の成長後、再就職したい	1	2	3	4	5
３０	結婚後も、出産後も仕事を続けたい	1	2	3	4	5

表3　職業に関する意識調査

下記の質問項目に対し、あなたの考えに最もふさわしい解答を
1から5までの数字の中から1つ選んで○印で囲んで下さい。

番号	質問項目	1 全くそう思う	2 やや思う	3 どちらともいえない	4 あまり思わない	5 全くそう思わない
1	男性も女性も経済的に自立することが望ましい	1	2	3	4	5
2	仕事は自分の能力を発揮するためである	1	2	3	4	5
3	働くことは生きがいである	1	2	3	4	5
4	社会貢献のために働いている	1	2	3	4	5
5	豊かな交遊関係をつくるためである	1	2	3	4	5
6	職場において男女の差別はなくならない	1	2	3	4	5
7	男性中心の職場に女性も進出している	1	2	3	4	5
8	女性の管理職が増えている	1	2	3	4	5
9	職場での人間関係にはとても苦労する	1	2	3	4	5
10	男女の差は仕事上の能力差と関係がある	1	2	3	4	5
11	一般に女性の場合現状の仕事に満足してしまう	1	2	3	4	5
12	女性の社会的自立への意欲が高まっている	1	2	3	4	5
13	女性は政治を動かす力をもっている	1	2	3	4	5
14	結婚・出産後も働く女性が増えている	1	2	3	4	5
15	不十分な公的保育機関が問題である	1	2	3	4	5
16	男性よりも女性の高学歴化が進んでいる	1	2	3	4	5
17	仕事をしていても家庭を重視する	1	2	3	4	5
18	男性は仕事、女性は家庭という考えは古い	1	2	3	4	5
19	仕事は個々の女性の適性により頑張ればよい	1	2	3	4	5
20	家事は基本的には男女が平等に行うのが望ましい	1	2	3	4	5
21	仕事と家庭の両立を目指している	1	2	3	4	5
22	男性の方が経済的に優位に立っている	1	2	3	4	5
23	結婚は女性の主体的選択である	1	2	3	4	5
24	出産後、母親は休職、退職して育児に専念するのが望ましい	1	2	3	4	5
25	女の子より男の子の就職の方が気になる	1	2	3	4	5
26	女性の晩婚化は経済的な自立に原因がある	1	2	3	4	5
27	育児よりも仕事をする方が楽である	1	2	3	4	5
28	安心して出産できる職場環境が整っていない	1	2	3	4	5
29	いずれ独立できる仕事がしたい	1	2	3	4	5
30	リーダーシップは女の子にも男の子にも身につけさせる	1	2	3	4	5

結果・考察

1．学生の就業意識に関する因子分析

表4　学生の就職意識に関する因子分析

因子	テーマ	因子解釈
1	仕事重視 11.5%	仕事に対して積極的に願望を示す因子
2	快適仕事 12.1%	快適に仕事をするために企業に条件を示す因子
3	ライフプラン 11.9%	どの時点まで仕事を続けるかという人生設計の因子
4	自　立 11.5%	精神的，経済的に自立し，自己啓発を求める因子
5	スキルアップ 13.5%	自己能力，適性，個性を伸ばしたいとする因子
6	職場環境 10.9%	良い職場環境に就職したいという因子
7	安心安定志向 9.2%	大企業因子に勤めたいという因子
8	仕事は一生 9.0%	仕事は一生続けたいという因子
9	資金源 10.4%	働くことは何かの資金として得たいという因子

学生1370名の就職に関する質問項目30の因子分析を行い，主要な9因子を抽出した。第2報においては対象とする学生数が多く，多様化している学生の意識を更に深く追求するために9因子を抽出した。

因子特性は次のように解釈した。

第1因子は，仕事重視因子とした。仕事に対して積極的に願望を示しており，チャレンジ精神が見える。因子寄与率 11.5%

第2因子は，快適仕事因子とした。快適に仕事をするために，企業に示す条件因子である。因子寄与率 12.1%

第3因子は，ライフプラン因子とした。どの時点まで仕事を続けるかという人生設計の因子である。結婚，出産，育児が大きく関わっていることが分かる。因子寄与率 11.9%

第4因子は，自立因子とした。精神的，経済的に自立し，自己啓発を求める因子である。因子寄与率 11.5%

第5因子は，スキルアップ因子とした。取得した資格を生かして仕事がしたい等，自己の能力，適性，個性を伸ばしたいという因子である。因子寄与率 13.5%

第6因子は，職場環境因子とした。良い職場環境に就職したいという因子である。因子寄与率 10.9%

第7因子は，安心安定志向の因子とした。知名度のある，安定した大企業に勤めたいという因子である。因子寄与率 9.2%

第8因子は，仕事は一生因子とした。仕事は一生続けたいという因子である。因子寄与率 9.0%

第9因子は資金源因子とした。仕事をする目的は資金を得るためという因子である。因子寄与率 10.4%

1370名の学生の就職に対する因子特性は，第2因子（快適仕事因子），第5因子（スキルアップ因子）の寄与率が高いことから，取得した資格を生かした仕事がしたい，自己の能力，適性，個性を伸ばしたいと言うようなスキルアップ志向で，快適に仕事をするために良い条件の企業を求めていることが分かった。

1）属性別による比較

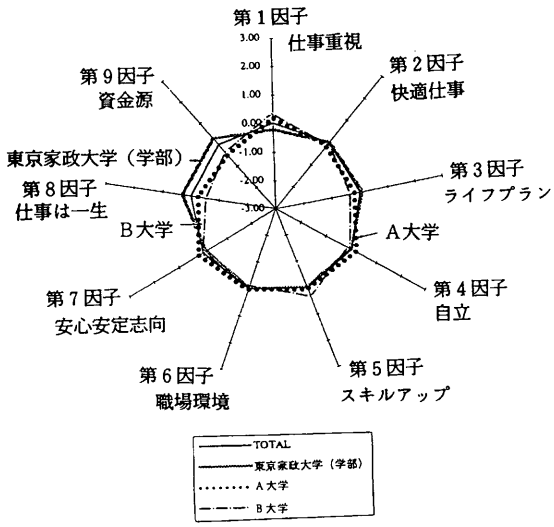
性別因子得点平均値より比較を行ってみた。

(1)　各大学の比較

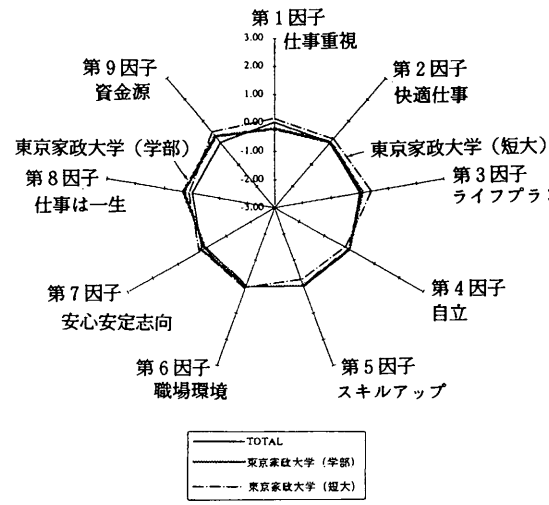
家政大学と共学のA，B大学と比較してみた結果，A，B大学とも第1因子（仕事重視因子）が高く，第8因子（仕事は一生因子），第9因子（資金源因子）の低い事が分かった。

家政大学は第3因子（ライフプラン因子），第8因子（仕事は一生因子），第9因子（資金

各大学の比較



東京家政大学の学部生と短大性の比較



男子学生と女子学生の比較

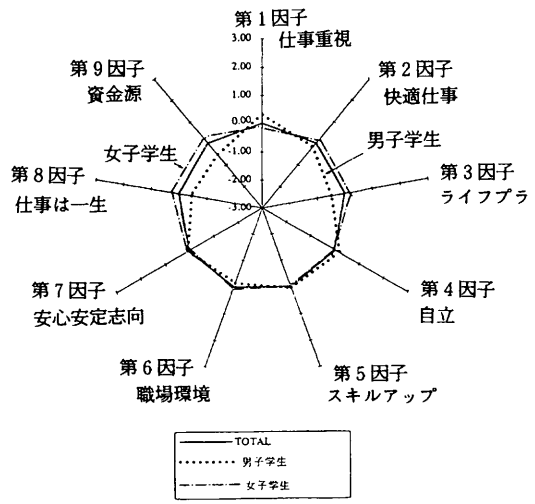


図1　属性別による比較

源因子）が高く，働くのは資金を得るため，又，一生続けられる仕事がしたいと考えているのに対し，A，B大学では働くことは資金を得るためではなく，又，一生続けられる仕事がしたいということに対しても関心が少ないという結果が得られた。

女子大と共学の違いが現れた結果であると考えられた。

B大学では第5因子（スキルアップ因子）にも高い数値を示していた。

(2)　家政大学の学部生と短大性の比較

家政大生の学短を比較すると，学部生は第4因子（自立因子），第5因子（スキルアップ因子），第8因子（仕事は一生因子）に高い数値を示していた。

短大生は，第1因子（仕事重視因子），第2因子（快適仕事因子），第3因子（ライフプラン因子），第9因子（資金源因子）において数値が高く，第4因子（自立因子），第5因子（スキルアップ因子）においては特に低くなっていた。

学部生は自立，スキルアップに意識が高く，大企業でなくても，一生続けられる仕事がしたいと考えているのに対し，短大生は，どの時点まで仕事を続けようかという意識が高く，快適な職場で，世間，社会から，注目される仕事がしたいと考えているようである。第9因子（資金源因子）も高い。

(3)　男女学生の比較

男子は第1因子（仕事重視因子）が高く，妻に対する第3因子（ライフプラン因子）は低くなっている。妻に対する質問項目とは，①結婚後は仕事をしない方が良い②結婚後も出産まで仕事をする方が良い③出産で仕事を辞め，子供の成長後再び働く方が良い④結婚，出産後も仕事を続ける方が良いという4問である。妻が働きたいということに対して反対意見を持っているという事がわかった。又，第8因子（仕事は一生因子），第9因子（資金源因子）も低い。仕事をするということは資金源を得るためではないと言う事，又，一生続けられる仕事ということには，こだわっていないということが男子学生の特徴であると分かった。

女子は，どの時点まで仕事を続けるかという人生設計の第3因子（ライフプラン因子）が特に高く，結婚，出産，育児が仕事をするということに大きく関わっている事が分かる。仕事をする目的は交友，レジャーなどの資金を得るためや，人生の伴侶を見付けたいという第9因子（資金源因子），第8因子（仕事は一生因子）も高い数値を示していた。

(4)　5因子の比較

第1報においては5因子を抽出し検討した。第2報における5因子までの結果で対象を4つ（東京家政大学，共学女子，全大学，男子大学）に分け，昨年との因子特性を比較してみた。

結果は表5の通りである。

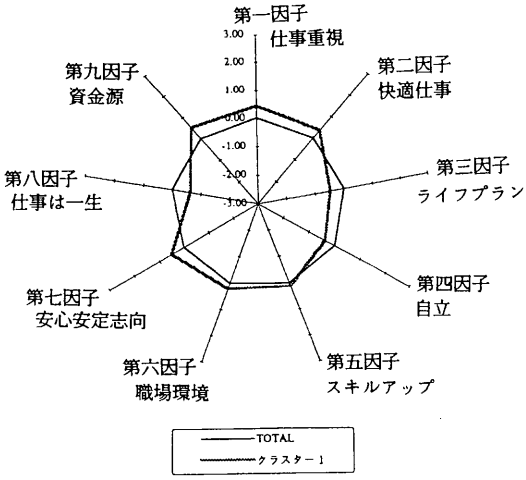
2．学生の就業意識に関するクラスター分析

学生においては，類似した特性を基準に10のクラスターに分類した。

表5　5因子の比較

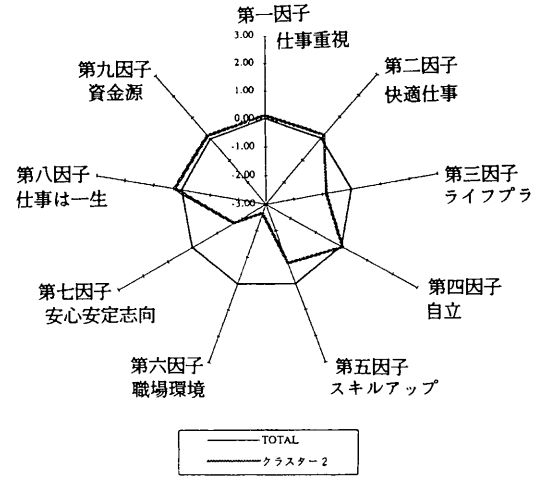
因子	第1報	第2報			
	家政大	家政大	共学女子	全体	男子学生
1	スキルアップ	スキルアップ	スキルアップ	快仕事	ｽｷﾙｱｯﾌﾟと自立
2	快仕事	快仕事	快仕事	スキルアップ	快仕事
3	ライフプラン	自立	自立	ライフプラン	仕事重視
4	大企業	ライフプラン	ライフプラン	自立	仕事と生活
5	自立	経済性	経済性	仕事重視	ライフプラン

クラスター１（大学生）
仕事エンジョイ派



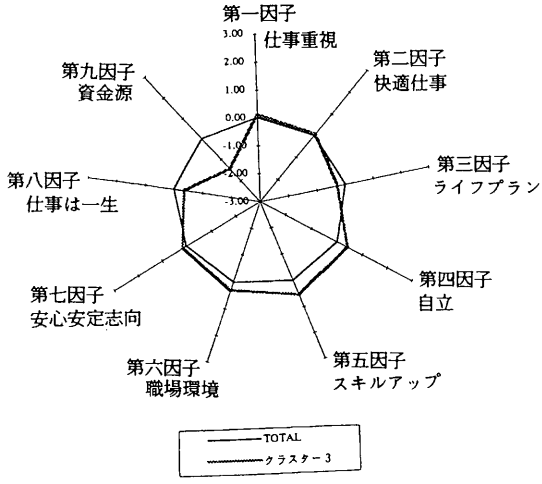
構成比　１３．７％

クラスター２（大学生）
働く事はまだまだ先の事



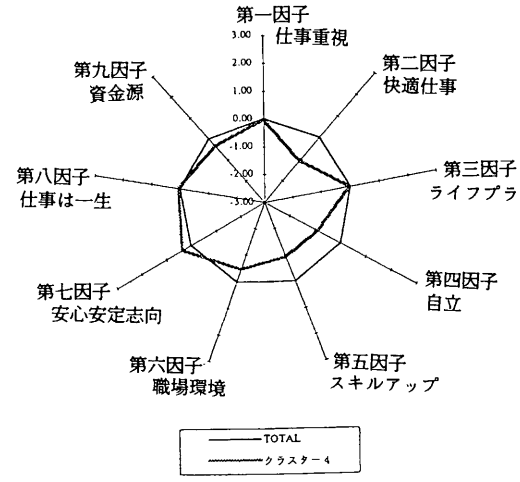
構成比　２．２％

クラスター３（大学生）
スペシャリスト志向



構成比　１１．５％

クラスター４（大学生）
漠然とは働くだろう

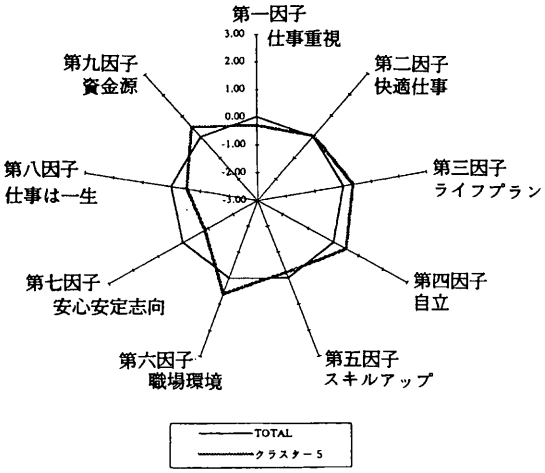


構成比　９．２％

図２－１　各クラスターの特徴（学生）

クラスター５（大学生）

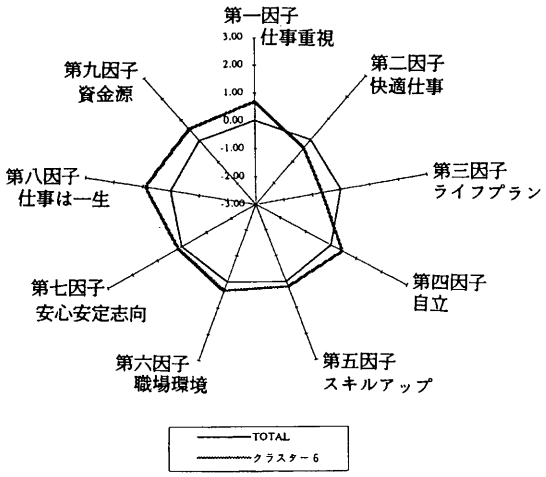
大企業でなくても普通に働ければ



構成比　１３．４％

クラスター６（大学生）

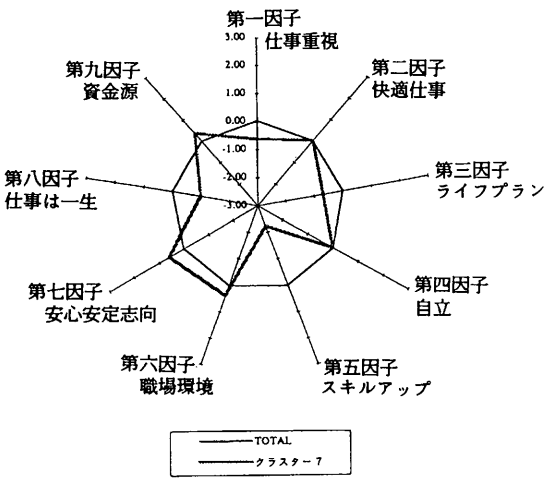
よく遊び、よく働く



構成比　１０．８％

クラスター７（大学生）

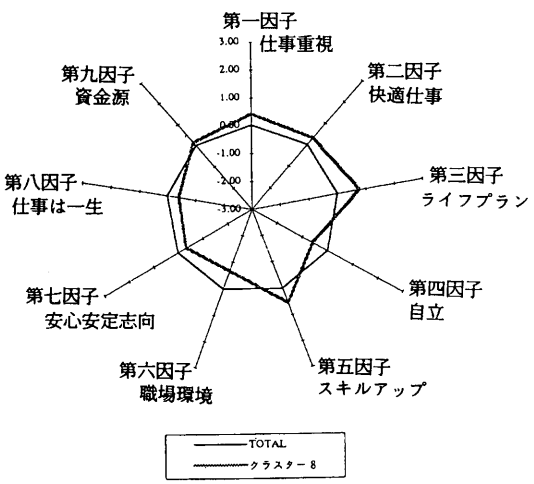
大企業腰掛け型



構成比　２．７％

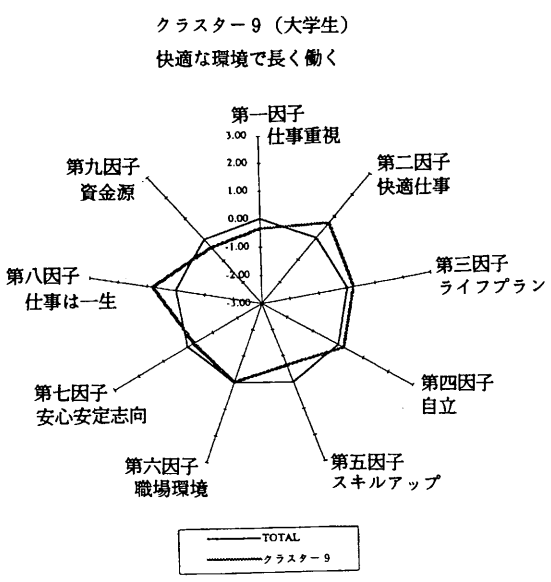
クラスター８（大学生）

フリーランス志向

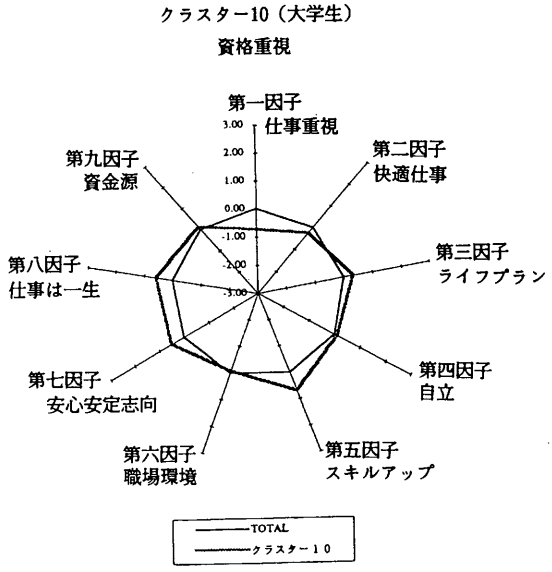


構成比　１１．９％

図２－２　各クラスターの特徴（学生）



構成比　11．2％



構成比　13．5％

図2－3　各クラスターの特徴（学生）

第1クラスターは，仕事エンジョイ派とした。良い環境，条件の中で仕事をしたいと考えている，グループである。構成比 13.7%

第2クラスターは，働くことはまだまだ先の事と考えているグループとした。第3因子（ライフプラン因子），第5因子（スキルアップ因子），第6因子（職場環境因子），第7因子（安心安定志向因子）が特に低く，働く事の意識が未文化，未発達のように感じられた。構成比 2.2%

第3クラスターは，スペシャリスト志向グループとした。第4因子（自立因子），第5因子（スキルアップ因子）が高く，仕事をするのは自立，スキルアップのためと考えている。第9因子（資金源）が特に低い。構成比 11.5%

第4クラスターは，漠然とは働くだろうと考えているグループとした。第7因子（安心安定志向因子）が高く，仕事について深く考えていないが，漠然と働くだろうと考えているグループである。構成比 9.2%

第5クラスターは，大企業でなくても普通に働ければと考えているグループとした。第3因子（ライフプラン因子），第4因子（自立因子），第6因子（職場環境因子），第9因子（資金源因子）に高い数値がみられた。構成比 13.4%

第6クラスターは，良く遊び，良く働く（仕事も遊びもバリバリこなす）グループとした。第2因子（快適仕事因子），第3因子（ライフプラン因子）以外は高い数値を示しており，仕事も遊びもバリバリしたい，キャリアアップ志向のグループである。構成比 10.8%

第7クラスターは，大企業腰掛け型のグループとした。第6因子（職場環境），第7因子（安心安定志向因子），第9因子（資金源因子）に高い数値がみられた。構成比 2.7%

第8クラスターは，フリーランス志向のグルー

プとした。第４因子（自立因子），第６因子（職場環境因子），第７因子（安心安定志向因子），第８因子（仕事は一生因子）に高い数値がみられた。企業の中で働くことよりフリーで仕事がしたいと考えているグループである。構成比11.9%

第９クラスターは，快適な環境で長く働く（アンチ専業主婦）グループとした。第２因子（快適仕事因子），第８因子（仕事は一生因子）に特に高い数値がみられた。快適な環境で長く働きたいと考えているグループである。構成比11.2%

第10クラスターは，資格重視グループ（資格を生かして大企業で働きたい）

第５因子（スキルアップ因子），第７因子（安心安定志向因子），第８因子（仕事は一生因子）に高い数値がみられた。資格を生かして大企業で働きたいと考えているグループである。構成比 13.5%

クラスター２と４は，“今は働く必要がないが，一生働くつもりはある”というグループである。他のことに安心を求めており，違う環境を持っていると考えられた。

クラスター６，９，10は，仕事は一生因子が特に高く，仕事をしたいというグループである。どういう仕事をしたいのかは分からない。

２）属性による学生のクラスター分析の特徴

(1) 大学別によるクラスター分析の特徴

記号　◎　全体より10ポイント高い数値
　　○　〃　5　〃
　　▼　〃　10ポイント低い数値
　　▽　〃　5　〃

A大学

◎　クラスター３　スペシャリスト志向
▼　クラスター２　働くことはまだまだ先のこと

B大学

◎　クラスター２　働くことはまだまだ先のこと
◎　クラスター３　スペシャリスト志向
▼　クラスター９　快適な環境で長く働く
▼　クラスター10　資格重視

東京家政大学

◎　クラスター５　普通に働く
◎　クラスター６　良く遊び，良く働く
◎　クラスター10　資格重視
▼　クラスター１　仕事エンジョイ派
▼　クラスター３　スペシャリスト志向

東京家政大学（短期大学）

◎　クラスター７　大企業腰掛け
◎　クラスター９　快適な環境で長く働く
▼　クラスター３　スペシャリスト志向

（２）男女学生別によるクラスター分析の特徴

男子学生

◎　Ｃ３　スペシャリスト派
◎　Ｃ２　働くことはまだまだ先のこと
▼　Ｃ９　快適な環境で長く働く
▼　Ｃ10　資格重視

女子学生

◎　Ｃ９　快適な環境で長く働く
◎　Ｃ10　資格重視
▼　Ｃ２　働くことはまだまだ先のこと
▼　Ｃ３　スペシャリスト志向

クラスター１，２，３，４は主に男子学生のグループであり，クラスター８，９，10は女子学生のグループであることがわかった。男女学生は正反対の特徴を示していた。

（３）学年別によるクラスター分析の特徴

１年次はクラスター１（仕事エンジョイ派），クラスター３（スペシャリスト志向）のグループに高い数値が見られた。クラスター５（普通に働ければ），クラスター９（快適な環境で長く働く）は低い。２年，３年次は特に特徴を示

表6　属性による学生のクラスター分析の特徴

クラスター＼属性		大学別				男女別		学年別			
		A大学	B大学	家政大学学部	家政大短学大	男子学生	女子学生	1年	2年	3年	4年
1	仕事エンジョイ派		○	▼	○	○	▽	◎		▽	▽
2	働く事はまだまだ先の事	▼	◎	○		◎	▼	○	▼		○
3	スペシャリスト志向	◎	◎	▼	▼	◎	▼	◎	▼		▽
4	漠然とは働くだろう					○	▽				
5	大企業でなくても普通に働ければ		▽	◎		▽	○	▼			◎
6	よく遊び、よく働く			◎	▽			▽			
7	大企業腰掛け型			▽	◎						
8	フリーランス志向	▽		▽	○	▽	○		○		▽
9	快適な環境で長く働く		▼	○	◎	▼	◎	▼	○		○
10	資格重視		▼	◎	▽	▼	◎				

◎：全体より10ポイント高い数値　▼：全体より10ポイント低い数値
○：全体より　5ポイント高い数値　▽：全体より　5ポイント低い数値

さず，4年次になるとクラスター5（大企業でなくても普通に働ければ）に高い数値が見られた。学年ごとに変化する学生の意識から，就職に対する社会の厳しさを感じる。

3．卒業生の職業意識に関する因子分析

卒業生111名の職業意識に関する因子分析の結果，主要な7因子を抽出した。

7因子の特性を次のように解釈した。

第1因子は，能力発揮因子とした。自己啓発，自己実現のために仕事をしていると考えられる仕事生きがい派である。因子寄与率 17.2%

第2因子は，伝統的母親象の因子とした。男女意識を痛切に感じているがどうしようもない。闘志型ではなく，伝統的な母親である。因子寄与率 14.7%

第3因子は，社会進出因子とした。家庭を重視しながら社会的に自立したいと考えている女性の社会進出因子である。因子寄与率 15.5%

第4因子は，男女差別因子とした。女性が仕事をする環境は男性主体の社会であることを痛感し，認識している因子である。因子寄与率 12.9%

表7　卒業生の職業意識に関する因子分析

因子	テーマ	因子解釈
1	能力発揮 17.2%	自己啓発，自己実現のために仕事をしている因子
2	伝統的母親像 14.7%	男女意識を痛切に感じている因子
3	女性の社会進出 15.5%	家庭を重視しながら社会的に自立したいと考えている因子
4	男女差別 12.9%	女性が仕事をする環境は男性主体の社会である事を痛感し，認識している因子
5	女性の職場進出 12.2%	女性も男性中心の職場に進出し，社会的な自立への意欲が見られる因子
6	男女平等 13.0%	男女差を意識していて平等を求めている因子
7	女性自立 14.6%	女性も精神的，経済的に自立することが望ましいと考える因子

第5因子は，職場進出因子とした。女性も男性中心の職場に進出し，社会的な自立への意欲を示している女性の職場進出因子である。因子寄与率 12.2%

第6因子は，男女平等因子とした。男女差を意識していて平等を求めている因子である。因子寄与率 13.0%

第7因子は，女性自立因子とした。女性も精神的，経済的に自立することが望ましいと考えている因子である。因子寄与率 14.6%

昨年は40代の女性を中心に意識調査を行ったが，女性が仕事をする場合は，家庭と仕事の両立をいかに計るかという事に重点がおかれ，家庭重視という家庭の基盤の上に立って仕事をしている事が分かった。男女平等を求める因子が最も高かった。(男女同権 26.3% 仕事重視 24.1% 社会進出 17.5% 家庭重視 16.2% 男性優位 15.9%)

今年の調査結果である。30代の女性は，生きがいを持って仕事をしている女性の因子（能力発揮）が第1にあげられた。

4．卒業生の職業意識に関するクラスター分析

卒業生の類似した特性を基準に5つのクラスターに分類した。各クラスターのテーマは次のように解釈した。

第1クラスターは，職場の環境には，満足しているグループとした。第1因子（能力発揮因子），第5因子（女性の職場進出因子）が高く，職場の環境に満足して仕事をしているグループである。構成比 27.9%

第2クラスターは，伝統的母親像グループとした。男女差を意識していて，自分の子供に平等意識を強く持っているグループである。第4因子（男女差別因子），第6因子（男女平等因子），第2因子（伝統的母親像の因子）が高い。構成比 13.5%

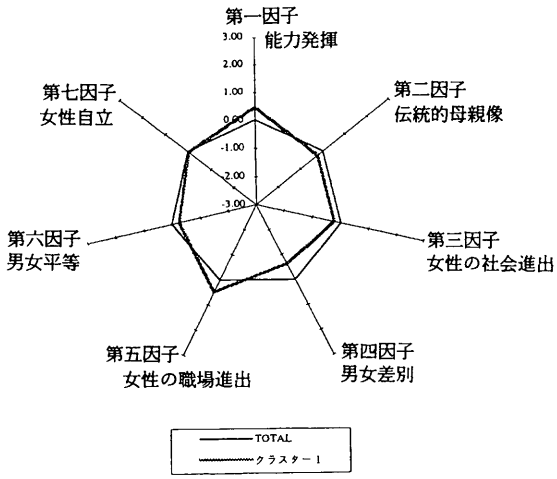
第3クラスターは，世間は世間，自分は自分というグループとした。第2因子（伝統的母親像の因子），第3因子（女性の社会進出因子），第4因子（男女差別因子）が高い。女性も社会進出しているが，自分は自分と考えている。男女差別を意識しているが平等でなければいけないとは思っていないグループである。構成比 26.1%

第4クラスターは，現状満足の仕事生きがいグループとした。第1因子（能力発揮因子），第3因子（女性の社会進出因子）が高い。構成比 12.6%

第5クラスターは，仕事無関心派とした。仕事が生きがいというのでもなく，又伝統的な母親像というものでもなく，他に生きがいを持っている仕事無関心派である。構成比 19.8%

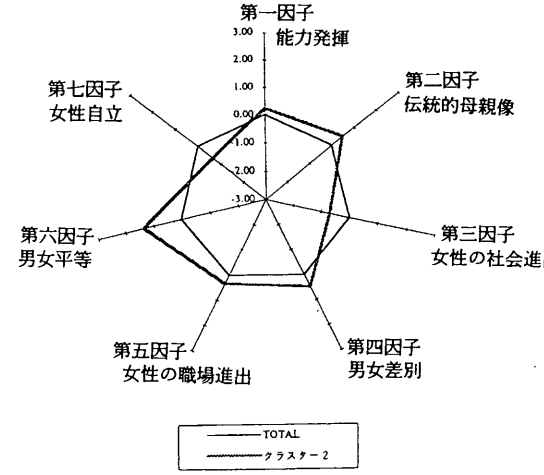
40代の働く女性は家庭重視の傾向が高いという結果が得られたが，30代の働く女性は，職場の環境に満足し，積極的に仕事をしている様子が分かった。

クラスター１（卒業生）
職場の環境には満足



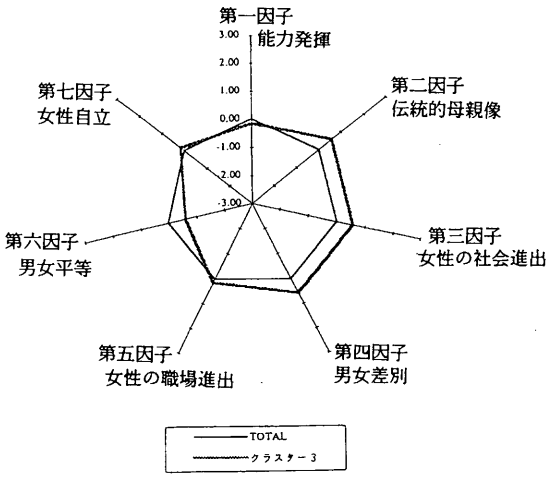
構成比　２７．９％

クラスター２（卒業生）
伝統的な母親像



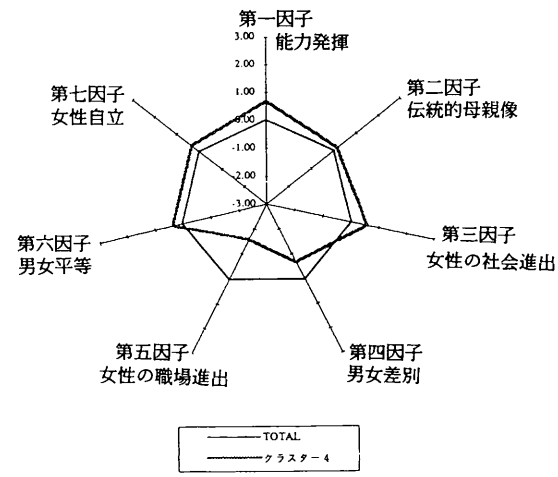
構成比　１３．５％

クラスター３（卒業生）
世間は世間、自分は自分



構成比　２６．１％

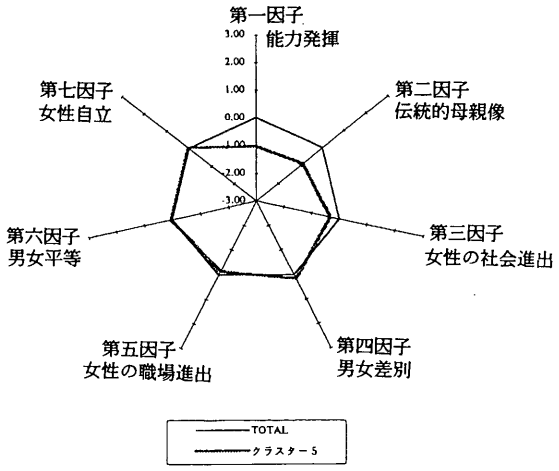
クラスター４（卒業生）
現状満足の仕事生きがいグループ



構成比　１２．６％

図３－１　各クラスターの特徴（卒業生）

クラスター５（卒業生）
仕事無関心



構成比　１９．８％

図３－２　各クラスターの特徴（卒業生）

１）属性による働く女性のクラスター分析の特徴

(1)　未婚の女性と，子供のいない既婚の女性

○　クラスター５　仕事無関心派に割合高い数値を示していた。他に生きがいがあるようにも思える。

(2)　子供がいる既婚の女性

◎　Ｃ４　現状満足の仕事生きがいグループに高い数値を示していた。

(3)　年令別による比較

30～34才の女性と35～39才の女性は，クラスター３（世間は世間，自分は自分），クラスター４（現状満足の仕事生きがい），クラスター５（仕事無関心派）において正反対の特徴を示していた。

(4)　仕事の業種別による比較

公務員，卸売，小売，製造，建設など広い業種に渡り，クラスター２（伝統的な母親像）に割合高い数値を示していた。

公務員，教育はクラスター３（世間は世間，自分は自分）に低い数値を示していた。

(5)　仕事の職種別による比較

栄養士，管理栄養士は，クラスター４（現状満足の生きがいグループ）に高い数値を示していた。

技術系は，クラスター５（仕事無関心派）に高い数値を示していた。

(6)　仕事の就業形態別による比較

自営業種

◎　クラスター２　伝統的な母

◎　クラスター４　現状満足の仕事生きがいグループ

正社員

◎　クラスター１　職場の環境には満足

契約社員

◎　クラスター２　伝統的な母親像

表8　属性による働く女性のクラスター分析の特徴

クラスター＼属性		未婚既婚別			年齢別		業種別								
		未婚	既婚子供なし	既婚子供がいる	30—34才代	35—39才代	公務員	教育	サービス	医療	卸売・小売	製造アパレル含	建設	ソフトウエア	フリーター
1	職場の環境には満足		▼	○	▽				○						
2	伝統的な母親像		○		○		○				○	○	○		
3	世間は世間、自分は自分		▽		◎	▼	▽	▽						○	
4	現状満足の仕事生きがいグループ			◎	▽	○				○		○			○
5	仕事無関心	○	◎	▼	▽	○		○				○			

クラスター＼属性		職種					就業形態				肩書き			勤続年数				最終学歴	
		事務系	教職	技術系	専門職	事業経営	管理栄養士	正社員	契約社員	自営業種	アルバイト	管理職	契約社員	アルバイト	1年未満	3—5年	5—10年	10年以上	専門学校	大学
1	職場の環境には満足	○					◎	▽		▽		▽	▽	▽			○	▽	▽
2	伝統的な母親像	▼			○		▽	◎	◎			◎	○			○	▽		◎
3	世間は世間、自分は自分	○	▽				▼			◎		○	○	◎		▼	▼	◎	▼
4	現状満足の仕事生きがいグループ					◎		○	◎		◎	○	▼		◎	▼	◎	▼	◎
5	仕事無関心	▼		◎				▽				▼			▽	◎	○		

◎：全体より１０ポイント高い数値　▼：全体より１０ポイント低い数値
○：全体より　５ポイント高い数値　▽：全体より　５ポイント低い数値

アルバイト

◎　クラスター３　世間は世間，自分は自分

に高い数値を示しており，それぞれに特徴がみられた。

(7)　仕事の肩書き別による比較

管理職

◎　クラスター４　現状満足の仕事生きがいグループ

契約社員

◎　クラスター２　伝統的な母親像

▼　クラスター５　仕事無関心派

アルバイト

▼　クラスター４　現状満足の仕事生きがい

(8)　職場での勤続年数による比較

１年未満	◎	クラスター３	世間は世間，自分は自分
３～５年	◎	クラスター４	現状満足の仕事生きがい
５～10年	◎	クラスター５	仕事無関心派
	◎	クラスター４	現状満足の仕事生きがい
10年以上	▼	クラスター３	世間は世間，自分は自分

(9)　最終学歴による比較

専門学校卒と大学卒はクラスター３（世間は世間，自分は自分），クラスター４（現状満足の仕事生きがい）において正反対の特徴を示していた。

(10)　１年間の収入別による比較

収入が高くなる程，クラスター４（現状満足の仕事生きがい）に高い数値がみられた。

(11)　職場での立場による比較

経営者，役員，役職の責任者など上の立場にいる人程，クラスター４（現状満足の仕事生きがいグループ）に高い数値を示していた。

(12)　仕事継続意思の比較

クラスター４（現状満足の仕事生きがいグループ）のグループでも50才くらいまでとしているのが最も高い数値を示していた。

定年までとするグループはクラスター１（職場の環境に満足），クタスター４（現状満足の仕事生きがいグループ）にみられた。

(13)　生活から見た比較

仕事と生活のバランスのとれた生活をしている人は特徴を示さず，仕事中心の生活をしている人はクラスター４（現状満足の仕事生きがい）に高い数値を示していた。

生活中心の人はクラスター２（伝統的母親像），クラスター３（世間は世間，自分は自分）に割合高い数値を示していたが，クラスター４（現状満足の仕事生きがいグループ）には特に低い数値を示していた。

ま と め

１．因子分析

１）学生の因子

職業意識に関する９因子を抽出した。因子の解釈は，

第１因子　仕事重視因子
（因子寄与率 11.1%）

第２因子　快適仕事因子
（因子寄与率 12.1%）

第３因子　ライフプラン因子
（因子寄与率 11.9%）

第４因子　自立因子
（因子寄与率 11.5%）

第５因子　スキルアップ因子
（因子寄与率 13.5%）

第６因子　職場環境因子
（因子寄与率 10.9%）

第７因子　安心安定志向因子
（因子寄与率　9.2%）

第８因子　仕事は一生因子
（因子寄与率　9.0%）

第9因子　資金源因子
（因子寄与率 10.4%）

とした。大学別，男女別，家政大の学短別それぞれに特徴がみられた。

2）卒業生の因子

職業意識に関する7因子を抽出した。因子の特徴は，

第1因子　能力発揮因子
（因子寄与率 17.2%）

第2因子　伝統的母親像の因子
（因子寄与率 14.7%）

第3因子　社会進出因子
（因子寄与率 15.5%）

第4因子　男女差別因子
（因子寄与率 12.9%）

第5因子　職場進出因子
（因子寄与率 12.2%）

第6因子　男女平等因子
（因子寄与率 13.0%）

第7因子　自立因子
（因子寄与率 14.6%）

とした。30代の女性は生きがいを持って仕事をしている因子に高い数値がみられた。

2．クラスター分析

1）学生のクラスター分析

学生を10クラスターに別けて検討した。

クラスターのテーマは，

1．エンジョイ派　（構成比 13.7%）
2．働くことはまだまだ先の事　（構成比 2.2%）
3．スペシャリスト志向（構成比 11.5%）
4．漠然とは働くだろう（構成比 9.2%）
5．普通に働ければ　（構成比 13.4%）
6．良く遊び，良く働く（仕事も遊びもバリバリこなす）　（構成比 10.8%）
7．大企業腰掛け型　（構成比 2.7%）
8．フリーランス志向　（構成比 11.9%）
9．快適な環境で長く働く　（構成比 11.2%）
10．資格重視　（構成比 13.5%）

とした。大学別，学年別，男女別，家政大の学短別の属性によって特徴をみることができた。

2）卒業生のクラスター分析

卒業生を5クラスターに別けて検討した。

クラスターのテーマは

1．職場の環境には，満足して仕事をしている　（構成比 27.9%）
2．伝統的母親像　（構成比 13.5%）
3．世間は世間，自分は自分　（構成比 26.1%）
4．現状満足の仕事生きがい　（構成比 12.6%）
5．仕事無関心派　（構成比 19.8%）

とした。未婚，既婚，業種，職種，年齢，仕事の肩書き，勤続年数，最終学歴など属性によって特徴の異なる事が分かった。

今後の予定

1．学生については，本学他学科の学生を加え引き続き就職意識の調査をする。
2．卒業生については，20才代を対象に調査をする。
3．調査結果をもとに，本学学生の人材育成について考察する。

参考文献

1．経済企画庁編　1997　国民生活白書
2．寺田恭子・山田民子・渡辺芳道：働く女性の職業意識に関する研究，東京家政大学生活科学研究研究報告，第20集，1997